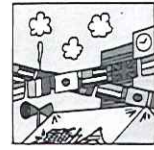


～お陰様で発刊10周年を迎えました～

## 『てんこもり』創刊10周年を迎えて



VEC関西支部発行の『てんこもり』が創刊されて、今回121号。10周年を迎えました。おめでとうございます。毎月1回、休むことなく、有意義で楽しい記事を“てんこもり”していただきありがとうございます。関西支部の本田支部長、澤村事務局長、藤本さん、濱本さんはじめ、VEC会員や寄稿していただいた多くの方々の努力に感謝し、お礼申し上げます。その他関西支部では、毎月開催する交流会など、本来なら東京の私が実施すべきところ何もせず、申し訳なく思っております。

さて、VECの誕生は第1次ベンチャーブームと言われた1975年7月1日。その5～6年前からスタートし、活発な活動をしてきた日本ベンチャー・ビジネス協会、関西ベンチャー・ビジネス協会（併せてVB協会）がありました。一方、通産省（通商産業省、現経済産業省）でも、新しいタイプの中小企業（後のベンチャー企業）の存在を知り、内部で研究会を始めていました。その後VB協会と何回も話し合った結果、VB協会は発展的解消し、財団法人VEC（Venture Enterprise Center）の誕生となりました。（【注】参照）

来年、VECは創立40周年を迎えます。その間、第2次、第3次ベンチャーブームを経て、第4次ブームの気配を感じさせはしたものの、世界的なリーマンショック等の影響もありブームには至りませんでした。ところが一昨年末頃の総選挙、自民党圧勝、安倍内閣誕生、経済最優先・長引く不況から脱却の旗印のもと、ベンチャービジネス最優先支援政策。

さあ、VECの出番です。VECも4年前市川新理事長を迎え、新体制で動き出しました。法律改正もありますが、新事業がやり易い一般財団法人に生まれ変わり、「新生VEC祝賀会」開催（H24年 100名弱参加）、今年から年1回のVB投資等調査を四半期毎に実施・公表し、夏には「ベンチャー白書」の英文版を作成・販売（海外からの反響も多い）等、活発な動きが出始めています。最後に、私の勝手なお願いです。「てんこもり」の発行を今後もずうーっと続けていただきたい

いのです。「継続は力なり」です。

最近発行の『てんこもり』の記事で、傘寿を過ぎた私でも勇気付けられる記事が幾つもありました。寄稿者選びも並大抵なことではないと思います。でも『てんこもり』で元気を出し、考えを新たに、更に頑張る読者も多いことでしょう。

是非、よろしくお願い致します。

【注】VEC設立当初の日本名は「(財)研究開発型企業育成センター」で、英文名は最初から現在も同じ。

日本名を本当は「ベンチャービジネス育成センター」にしたかったが、「ベンチャービジネス」という言葉が関係者では使われ出したものの、一般には知られていなく市民権を得ていない為、やむをえず漢字で適当に当てはめたとのこと。



日本コンピュータ・ダイナミクス株式会社 名誉会長  
一財)ベンチャーエンタープライズセンター 理事 下條 武男

～下條武男様へ関西支部長からのメッセージ～

下條様と言えばこの写真の様にこやかな笑顔です。誰にでも同じ様に話しかけられます。下條様は日本コンピュータ・ダイナミクス株式会社を創業され、日本コンピュータ・ダイナミクス株式会社を創業され、2000年9月にはジャスダック上場を果たされました。（現在は名誉会長）またVECの理事として設立以来長年に亘りベンチャーの為に現在でも尽力しておられ、すべての点で尊敬できる大先輩であります。

これからもご活躍を続けられ我々に範をお示しいただきますようお願い申し上げます。

本田 英行

## 保育ジジイの日本経済・歪論（上）



戦後最悪の政権が暴走しています。政・財・官が結託し、やりたい放題です。「富国強兵」「(民は)生かさず、殺さず」「万骨枯れて将生きる・・・」といったフレーズが蘇ってきます。そこで、万骨の端くれとして、何の役にも立たない抵抗をあえて試みることにしました。世界経済の実情、日本経済の現状、目指すべき方向性と処方箋、と三回に分けて私論を展開します。

\*

\*

世界経済の実情。やはり米国を中心にみると判りやすいでしょう。第二次大戦で、本土を戦場にする事のなかった戦勝国・米国は、永らく世界の覇権国として君臨してきました。が、ドイツや日本など各国が復興し、経済力を高めてくると、相対的に米国経済の優位性は低下します。ベトナム、湾岸、アフガン、イラクなどの戦争で国力が疲弊し、戦費の増大も災いし、財政は破たん状態に陥りました。そのため米国は「世界の警察国家」の地位を放棄、特に中近東などは宗教・民族問題なども絡んで、混乱に陥っています。親米だったサウジアラビアが、反米とまではいなくても距離を置いているのが、その典型でしょう。

\*

\*

基軸通貨「ドル」も、金兌換（金との交換）を停止し、変動相場制に移行しましたが、その価値は低下するばかり。日本を中心に先進国が為替介入という「御用金」\*で必死に支えてきましたが、「財政金融」という美名の「借金及び先延ばし」政策も行き詰まり、「債務上限の限度（＝借金をできる上限）」を来年2月まで先送りし、何とか

一息ついている状態です。

貿易の分野でも、強引に相手国へ市場開放を迫っています。過去にメキシコ、カナダ、EU、韓国などとFTA（自由貿易協定）を締結しています。近隣窮乏策の色彩も強いのですが、米国はお構いなし。TPP（環太平洋戦略経済連携協定）も、実質は日米の通商条約でしょう。何としても自産の農業製品や自動車売り込みたい。日本が全面屈服するまで強硬姿勢を貫く方針です。遺伝子組み換え作物、残留農薬の多い農産物、それに安全性が疑われる牛肉など、我々の食卓に入ってくる可能性も高いでしょう。

\*

\*

世界経済を翻弄し続ける膨大な「マネー」。リスクとリターンの狭間に揺れながら、新興国や米国などの間を駆け巡り、株式、債券、コモディティ（資源・商品）などの市場に押し寄せ、波打ち、渦巻いています。市場はととも吸収しきれず、株式や債券が同時に買われ（＝金利の低下）、またリスクに敏感なため、従前の経験や経済理論では説明しきれず、この制御不能の膨大な「マネー」を前に、ファンドを含めた海外投機筋や各国政府などは、茫然と立ち尽くしています。

（注）外貨準備は12,668億万ドル、うち外貨の証券は11,858億万ドル（93.6%）。大半は米国債かと。1ドル＝100円と単純計算すると120兆円（平成25年12月末＝財務省の資料より）。

（2014/8/5記）

<続く>

羽世田 鉦四郎  
元・ベンチャーキャピタリスト



## やさしい絵のみかた

やさしい絵のみかたと言うテーマでご依頼をいただきましたが、平成4年にミュージズをオープンした時、美術講座を企画した事があります。絵を描く為の講座でなく、絵をみるための「知っておきたい絵の知識」4回で終了というもので、内容は次の様なものです。

- (1) 絵を楽しむための基礎知識(油絵・水彩・版画等の技法の区別)
- (2) 日本画と洋画のちがい
- (3) 人生は感動です。
- (4) 抽象画をみて困りませんか?

実際に油絵や版画などを手に取り、その違いを学ぶのですが、上記の1、2、4はなんとなく理解出来、誰もが知りたいのは、その1、2、4だと思われるでしょう。3、は絵の見かたとどういった関係があるのだろうと疑問に思われませんか?その講座の内容は次の様なものです。

- (3) 人生は感動です。

第二次大戦のアウシュビッツの強制収容所で生き残った人々は、冬の寒い夜に収容所の外に出て星の美しさに友人と共に感動したり、自分のパンを死に行く子供に与えた人々です。命は感動する為に生まれ、そして感動によって私達は生かされています。美と言う永遠の感動を求めたゴッホの作品を通して、絶対の感動を求めた激しい生きざまをご紹介します、芸術の広さ深さと素晴らしさをご紹介します。

講師の画家でマルチアーティストの沢村洋二さんは感動がいかに芸術の本質であるか、そして技術やテクニックだけの絵は人の心を打たないと・・・。  
絵をみる、わかるとは頭で分析する事ではなく、どう感じるかです。絵をみる為に大切な事は、素直な心で絵の前に立ち、からだで全体を感じる。価格や、上手とか下手とか理解しなければいけないとか。あらゆる条件づけを外して子供の様な心でみる。色がステキとか、美しいなあ、強い線に引かれる。何かしらずっとみていたい等々、感じ方は自由です。

自分の内側から湧き出るものに委ねた時、いつの間にか絵と一体になっていくでしょう。

何をみても感動しなくなった時は要注意。心とからだがとても疲れて、感性が鈍っています。美術館でポーと過ごすのもいいですが、自宅でもオフィスでも出来る、『アートで瞑想』をおすすめします。椅子に楽に座り、好みの絵(版画でも何でも)をポーとみて、頭をカラッポにします。30分もすればエネルギーが湧いてきて元気になるでしょう。

心が安定し、喜びを感じ充実感のある時に脳波が安定。アルファ波の時に潜在意識からインスピレーションを受けます。企業戦士や経営者にはアートで瞑想が直感力、判断力を高めてくれるでしょう。

ギャラリーミュージズ 鈴木 雅子



## 「マンマーはこんなに変わりつつあります!」

この前もお知らせいたしました、マンマーは2011年アメリカのクリントン女史がいらっしやってからいっきにブームになって現在はこの国からも注目されている国です。その三年間のうち、マンマーにて進出する人も増えました。どこの国が多いかと申しますと日本、中国、韓国、タイはもっとも多く、他はシンガポール、ホンコン、アメリカ、マレーシア、ベトナムなどです。ヤンゴン市内では新しいお店も増えました。ホテルも増えました。とりあえず、オフィスだけを開きましようという人や会社もあります。

以下は最近の変わったいくつかの点です。

マンマーの通信について：2010年前は携帯用のシムカードを購入する場合、US\$3000、4000ドルでしたが2010年になると半額US\$1,500ぐらいになり今は一番安くて1,500Kyat (150円)から50,000Kyat (5,000円)ぐらいで購入するようになりました。手ごろの値段で一般人でも買えるようになりました。この数年間の内、外国からの通信会社などもマンマーに入ってきました。KDDI (日本)、TELENOR (NORWAY)、OOREDOO (QUOTAR) などは。

マンマーの通信局のもとで営業されております。そういう会社などがはいつてきたからこそ通信の幅も広くなり、よい方法へ変わりました。Communicationであるインターネットも以前はDialingシステムを使っていましたが、その後、ADSLというシステムで使えるようになり、それを高く支払って利用するようになりましたが最近前はほど高くはないです。

最近、Fiber Cable (光線)もところどころつけられるようになり、ADSLよりも簡単で使えるようになりました。契約すれば500,000Kyat (50,000円)かかります。種類によって毎月使用料金は以下の通りです。(512Kbps (45,000Kyats (4,500円)、1Mbps (75,000Kyats (7,500円)、2Mbps (125,000Kyats (12,500円)) 値段も手ごろで会社などの利用には便利です。

不動産屋さんについて。最近3年間の間で、投資する会社や入ってきたビジネスマンが多くなったので家賃代もかなり値上がりしました。前(300ドル、400ドル)のお部屋が(1,000ドル、1,500ドル)に値上がり場所もよくて広いCondominiumであれば(3,500ドル~5,000ドル)までに値上がりしました。値段が上がったので外国の人達は中心部、高級住宅地から離れて郊外の地元用のところに借りて住むようになり、全体的にばらばら住むようになりました。家賃が高いからこそ土地の値段、アパートの値段、も値上がりしました。

観光業も栄えました。色々な業者が入ったからこそ地元の人の仕事チャンスも多くなりました。会社が大きい、小さいによって雇う人数もそれぞれで給料もそれぞれです。給料も前より上がりました。一方では採用する人を探すのも難しくなりました。給料は上がったけど経験者を探すのは難しくなりました。

政治が変われば変わるほど経済、社会面も少しずつ変わりました。競争もある程度激しくなるでしょう。大、中、小の中で大の企業などはお金の力、人材の力もっているのどの様な波があってもしっかり残ると思います。中ぐらいの企業なども自分なりの仕方で頑張ればある場所は確保できるでしょう。小企業などはその競争のなかでたくさん頑張らないと大変な状況になるでしょう。

歴史がある程度長い会社の一部は頑張れば残るかもしれませんが歴史がない、経験がないBackgroundもない会社であれば長くは続けられなくなります。小企業などは明るい日もあれば、雨降り続けている日もあるでしょう。たくさん頑張らないと粉として消えてしまいます。

例えば、その中で旅行業にたとえますと日本のNO1のJTBさんや皆様に良く知られているHISさんが入ったからこそ日本のBrandが好きの人を含め皆さんJTBさんか、人気があるHISさんにお願いしちゃうでしょう。他の日系の会社なども自分なりに頑張ればなんとかなるけど地元用の小さい会社などは今までやってきた旅行の仕事だけでは生活のため難しくなりますので他も考えないといけない状況です。

ホテルはどこへ行っても日本人ばかりで視察や、調査で忙しいそうです。Fashionについて：マンマーも今ハン流で韓国の服屋さんやレストランも増えました。その影響でマンマーの若者は真似して着るようになりアイドルなども韓国Fashionをよく着るので町の中で短いズボンやスカートをはく若者も増えました。最近、KPOPグループがマンマーに演奏にきましたがある程度成功しました。今二回目をマンマーに来る準備をしているようです。(すでに来ました。)

食事生活について：マンマー人は三食とも家でちゃんと食べる民族でしたが今は外食する人も増えました。お金を使って外食する家族も増えました。最近、和食のレストランなども増えましたし、そこでマンマー人も食べるようになりました。刺身も食べられる人もいるそうです。すし、刺身、てんぷら、味噌汁が紹介されるようになりマンマー人の口にも合うようです。日本人をTargetして開いているお店もあれば、マンマー人をTargetしている人もいます。例えば、ある店は日本のすし店にて長年の間経験をしたマンマー人が帰ってきてこちらにてお店を開いているのでその店では1,000Kyat (100円)ぐらいですしを食べれるようになりました。日本食もマンマーでは人気です。

マンマー在住の通訳・ガイド業  
Khine Khine Swe (カインカインスエ)



### ～VEC関西より～

・てんこもり発刊10周年を迎えることができました。皆様の快いご協力で、これまで来ることができました。澤村事務局長はじめ、職員のみなさん有難うございました。ベンチャーの苦労話や、マーケティングのこと、旅行記、それこそ「てんこもり」。執筆をお願いした方々は快く引き受けていただき、今日まで続けることができました。下條先輩がおっしゃる様に今後10年20年と継続できることを祈ります。(本田)

・てんこもり編集集中に号数を見たら120号・・・ひょっとして10月で10年!とビックリしました。私も皆さんと縁あってVECで働くようになり10年が過ぎたんだと、改めて年齢を感じさせられました(涙)。このコーナーでのコメントも身近な情報、遊びの情報など自分の言葉でいいんだと、少し楽な気持ちで書けるようになりました。これからも「てんこもり」共々よろしくお願ひ致します。(藤本)

・十年一昔と申しますが、私自身公私ともに早足で駆け巡った年月であったように思います。只、私がVECで知り合った方々との出会いは人生の上でも宝物であ

ります。これからも皆様のパワー、知識、人生観など色々吸収していきたいと思っております。今後共々よろしくお願ひ致します。(濱本)

・2004年10月に情報交換の場として少しでもお役に立てればという思いから毎月発刊して10年を迎えました!これも偏に皆様のご協力のお陰と感謝しております。因みに10年前の10月末、日経平均株価終値は10,771円、円相場は1ドル106円でありました。これからもスタッフ一同、継続発刊をして参りたいと思っておりますのでよろしくお願ひ致します。(澤村)

<交流会の予定>

平成26年11月13日(木) Ditty株式会社  
代表取締役COO 加福 秀互 様

一般財団法人 ベンチャーエンタープライズセンター関西支部  
〒541-0053 大阪市中央区本町2-3-6 本町ビジネスビル9階  
TEL 06-6263-0366 FAX 06-4964-6293